

## 食べ物に見立てて遊ぶ 岡崎市島坂保育園(愛知県岡崎市)

1 歳児

5月下旬の戸外遊びの時、園庭に落ちている木の実・小石・落ち葉などを保育者が拾い「ご飯だよ」とカップの中に入れ、興味をもった子どもに「ハイ」と渡すと、その子は「マンマ」と言い、大事そうにいつまでも持ち歩くということがあった。保育者のかかわりで、小さな自然物を食べ物などに見立てられることが分かる場面だった。

(5月30日)

M 子：保育者と砂場に行き、カップとスコップを自分で取りに行く。

砂の上に木の実が落ちているのを見つけ、手に取る。

保育者：「あっ、木の実が落ちてるね」と声をかける。

M 子：近くにたくさん落ちていることに気付いて「あっ！」と木の実を指して保育者に言い捨てる。

保育者：「たくさん落ちているね。木の実だね」と一緒に数個拾い、カップを見せて「このカップいるかな？」と言う。

M 子：「いる」と言って受け取る。

保育者：「何の木の実かな？形が違うね」と木の実を見て言う。

M 子：カップを片手に持ってしゃがみ、ゆっくりした動作で1個1個を拾い、じっくり見てカップに入れる。

保育者：木の実に触れ、形や色の違いを感じて、1個1個に目を向けているのかもしれないと思いつき見守る。

M 子：カップ半分位集めて立ち上がり、スコップを持ってきて、保育者に「はい」と言い、笑顔で木の実の入っているカップとスコップを差し出す。

保育者：「食べていいのかな？」と言う。

M 子：「うん」とうなずく。

保育者：木の実を食べ物にイメージしたようなので、「いただきます。このご飯おいしいな、モグモグ」と食べるまねをする。食べ終わったまねをして、カップとスコップをM子に返す。

M 子：カップとシャベルを受け取り、保育者がやったように食べるまねをする。カップを逆さにし、中の実を砂の上に落とす。

保育者：「ごちそうさまかな？」と聞く。

M 子：「うん」とうなずく。



### みどころ

保育者が一緒に遊ぶことで、安心して遊び出せるばかりでなく、思ったことを行動や片言の言葉で表し、「伝える」「受け止めてもらう」という1対1のかかわりをし、心地よさや喜びを味わいながら、コミュニケーションの基本になるやりとりを経験しています。1歳児は「まねる」ことをきっかけにして行動に表せることが、この事例から分かります。

こうして遊びながら、気付いたり感じたりしたことが、伝えたいことになってまねるだけでない行動になります。この場面では、木の実や小石、砂などの自然物の特徴を1歳児なりに感じて食べ物をイメージし「見立てる」ということを遊びとして取り入れました。さらに、保育者の行動の意味を感じ、先生に行動で伝えるということも、変化や違いなどを感じて心を動かし「科学する心」が育まれている姿です。言葉で返してくれる先生に片言で返事をし、さらに思いを行動に表して、自分の思う遊びとして楽しむことができました。